

NPO法人

「畑と田んぼ環境」再生会

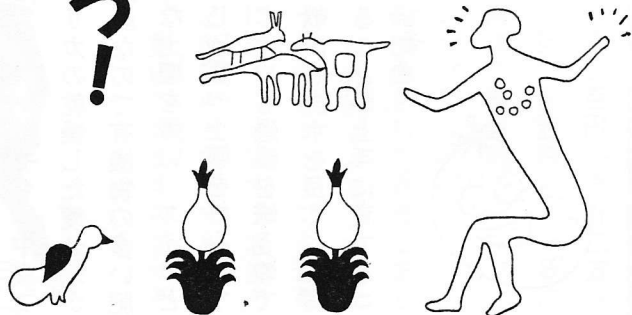
「農ある生活を楽しむ」

「畑と田んぼ環境」再生会
H23年4月27日、会報3号
編集：仲野 忠晴
E-mail:zokuchen@livedoor.com

野菜の故郷と性格を知ろう！

日本で栽培されている野菜の出身地を調べてみると、意外に国内原産の野菜は少なく、海外から渡来したものが多くことに驚きました。ちなみに国内産、海外から渡来した野菜とその時期をまとめると表のようになります。これを見てみると今の日本でたくさん作られている野菜は、ほとんどが遠い世界各地から渡ってきたことがわかります。また国内原産の野菜を見てみても日頃あまり食べないし、馴染みのないものが多いです

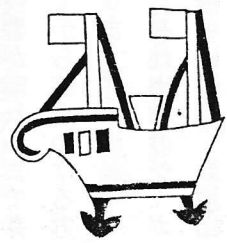
ね。ナズナ、ミズアオイ、コナギなどは、古代から江戸時代まで栽培、食用されていたのですが、今ではまた野生に戻って畑や田んぼの雑草となっています。この表には鎌倉時代に渡来した野菜が載せてありません。それは、鎌倉時代も中国などから野菜は渡って来たいたのですが、以前に渡来した種類の改良品種がほとんどで新種の野菜がなかったからです。この表からもわかるように鎌倉時代



より前は、日本の野菜の種類は今のようによくありませんでした。ですから、平安貴族の贅沢といっても、野菜については種類が少ないので、ジネンジョの甘煮などが最高のご馳走だったそうです。ところで、野菜には、この様にそれぞれ故郷があります。これは野菜を育てるときに大事なヒントになりますね。生まれ故郷がわかれば、その野菜をどんな環境条件（日照、気温、降水

量、土壌の種類、肥料などで育てればいいのか、それを知ることが出来るからです。そして、出来るだけその野菜の故郷に近い環境で育ててあげれば、野菜を無理なく元気に育てることが出来ます。また、野菜作りの本に書かれているポイントにも納得がいき、理解が深まるのではないのでしょうか。それに野菜を育てるとき、その野菜の生まれ故郷に思

いを寄せながら野菜を育ててみるのなかなかロマンがあつていいかもしれません。大雑把ではありますが、以下に野菜の原産地を文章と地図で紹介いたします。なお諸説あるものは、一つにしてあります。



日本原産の野菜と各時代に渡来した野菜

原産と渡来の時期	野菜名
日本が原産	フキ、セリ、ウド、ハマボウフウ、タデ、ジュンサイ、アサツキ、ラッキョウ、ミョウガ、マコモ、クロクワイ、ヒユ、ヤブカンゾウ、オニユリ、ヤマユリ、アシタバ、ミツバ、ミズアオイ
太古に日本に渡来	カブ、ハタケナ、オカノリ、シソ、シロウリ、マクワウリ、ユウガオ、ゴボウ、ネギ、ニラ、ダイコン、ワケギ、ニンニク、ショウガ
奈良～平安時代	カラシナ、ナス、トウガラシ、キュウリ、フジマメ、ササゲ、ウイキョウ、食用ギク、カキチシャ
室町～江戸時代	ハウレンソウ、日本カボチャ、ツルムラサキ、ミブナ、キョウナ、フダンソウ、インゲンマメ、エンドウ、ソラマメ、ニンジン、ジャガイモ、サツマイモ、スイカ、ニガウリ、トウモロコシ、イチゴ、シュンギク、チコリ、セルリー、スイゼンジナ、キクイモ
明治時代以降	ハクサイ、オクラ、ピーマン、レタス、キャベツ、タマネギ

【地中海型野菜】

地中海型気候は、夏は暑くて乾燥し、冬は雨が多く温暖です。ここから来た野菜、キャベツ、ブロッコリー、ダイコン、小松菜などのアブラナ科の野菜やほうれん草、タマネギ、エンドウなどは、冷涼な気候を好みます。そして、地中海沿岸で栽培する時期と同じように日本でも、秋に種蒔きや定植をして、冬期間育成、そして春、初夏に収穫します。気候の大きな違いは、冬の降水量です。地中海は雨が多いのに対して日本は乾燥しているというところが、そのため、特にキャベツやタマネギは、乾燥を嫌うので、育てるときにはこの点に注意します。それでキャベツやタマネギを育てる場合、冬の乾燥から守るために枯れ草を敷いた苗床（タマネギは十センチくらい）を用意して苗を植え、様子を見ながら水をあげるとよく育ちます。

【湿潤熱帯型野菜】

雨が多く、暑い地域のインド原産の野菜は、ナス、サトイモ、キュウリなどがあります。夏季に高温になり、降水量も豊富な日本の気候は、熱帯生まれの野菜にとっても相性がいいのですが、梅雨明けの真夏の乾燥が苦手です。そのためナスは夏の盛りがゆつくりとなり、また、キュウリは、根を深く張るナスと異なり浅く張るので土が乾燥すると弱ります。そして、日照や水分が十分でないとき曲がり物が多くなります。そのため雑草を生やして湿り気を保つ、藁や雑草などを敷いてマルチをして対応します。木村秋則氏によると、外気温が三十五度のとき、草をぼうぼう生やした畑の土の温度は二十四度だったそうです。ちなみに、ナスもサトイモは熱帯では多年草で、ナスは木のように育つそうです。

【乾燥熱帯型野菜】

雨が少ない、暑い地帯を原産とする野菜で、スイカ、トウモロコシ、サツマイモ、カボチャ、ピーマンなどがあります。雨が少ない地域に生育するため、乾燥に適した葉や根の性質を持っています。例えば、ピーマンの葉はつるつるして水をはじくのは、葉からの水分を嫌うからです。南アフリカ原産のスイカ、中央オーストラリア原産のトウモロコシやカボチャは、乾燥に備えて根を深く伸ばします。また、サツマイモも、中央アメリカの乾燥した痩せ地が原産なので有機物の多い肥沃な土壌を嫌い、スイカと同じ砂質の土壌を好みます。ピーマンも過湿を嫌うので高畝にし排水を良くして育てることが上手に育てるコツです。



【乾燥高山型野菜】

トマトやジャガイモは、南米のアンデス地方が原産です。ここは、赤道に近いので日照量が多いのですが、標高2千メートルを越える高地なので気温は冷涼、日中の寒暖の差がはつきりしています。また、雨があまり降らず乾燥した地域です。このためトマトやジャガイモは、日本の高温多湿の気候や熱帯夜は大の苦手です。ジャガイモが高温になると枯れ、トマトも実のつきが悪くなるのは、このためです。そのため、まず水はけのよい場所が適地になります。ただトマトの場合は、水耕栽培も出来るので、水の中でも根は腐りません。そのため乾湿の激変が根を弱らせると考えられます。ですから、草を生やして高温障害や過乾を防ぐことも一つの方法です。実際、トマトの下草をきれいに刈った翌日トマトが裂果したという報告があります。たく

さんの草が、雨を吸って来てくれているのですね。

また、日本でジャガイモを大きく育てる場合は、その生育期間の長さがポイントになります。春に植えられる場合は、霜の心配がない頃に芽が出るように逆算して種芋を植え付けます。また、植え付けが遅いと、生育途中で梅雨にぶつかり病気が発生しやすくなります。植えつけてから芽が出るまでの目安は、約一ヶ月です。秋ジャガは初霜が降りるまでが勝負になりますので、残暑が薄れるまで芽を出してから植えつける方法があります。

なお、高地出身のジャガイモは暑さに弱く、低地出身のサツマイモが暑さに強いのは、原産地の違いが理由です。

(仲野忠晴)



野菜の原産地

ヨーロッパ

アスパラガス、タイム、ミント、ローズマリー、クレソン、セルリー、パセリ



地中海沿岸

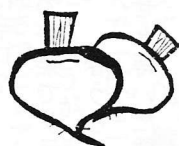
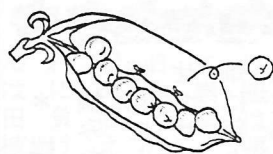
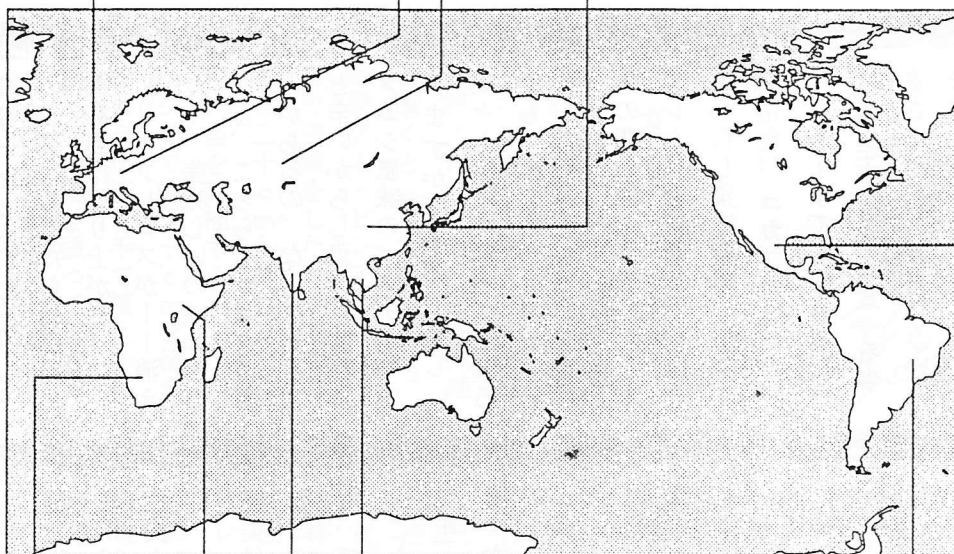
オオムギ、コムギ、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、カブ、コールラビー、ダイコン、タマネギ、リーキ、エンドウ、シュンギク、レタス、チコリー、ゴボウ、ラベンダー、アーティチョーク

中央アジア

ニンジン、リンゴ、モロヘイヤ、ホウレンソウ、ニンニク、セルリー

中国

ダイズ、コーリャン、ハクサイ、タカナ、カラシナ、チンゲンサイ、タアサイ、ネギ、ラッキョウ、シソ



南アフリカ

スイカ、メロン、オクラ、ソラマメ

東南アジア

イネ、柑橘類、バナナ、タロイモ、サトイモ、茶、サトウキビ、ゴーヤー、トウガン、ショウガ、ニラ

中央アフリカ

ササゲ、シコクビエ、ヒョウタン、ゴマ

南アメリカ

トマト、ジャガイモ、ラッカセイ



インド

ナス、キュウリ、シロウリ、ヘチマ、スイートバジル

中央アメリカ

トウモロコシ、サツマイモ、トウガラシ、カボチャ、ズッキーニ、インゲンマメ、ハヤトウリ



会員フォーラム

会員の皆さんの思いや考え、体験したことを紹介するコーナーです。



小さな畑の物語

遅しいー!



さなむ

ペロンチーノ

こんにちは、初めて野菜の種を蒔いてから7年目の春です。

住宅地のほんの小さなスペースが、いつしか野菜畑へと変身！ここからすべてが始まります。初めての体験はびっくりもいっぱい、少しだけご紹介します。

*サバイバルブロッコリー

数年前初めて蒔いたブロッコリーの種、ちよつと時期が遅かった？15センチ位の小さなままで冬に突入。腐葉土マルチだけで寒さに縮こまりながら、早春立派な花蕾をつけてくれました。さつと塩茹でしたら、お、美味しい！ブロッコリーの常識を覆す豊かな味と甘さ。(これ、癖になります) 糖分をいっぱい溜め込んで健気に冬越し、お見事ー!

*蝶々は辛口?

摘みたての野菜でサラダ、

憧れでした。春うらら、

せつせつせつと蒔いた種。

畑は年々ヒラヒラ蝶や虫が

集まって来ている様な?

のん気にしてたら幼虫達の

大宴会は盛り上がり、つい

にリーフレタスがー消え

た! 美味しいのはわかる

けど、こちらもサラダの都

合があるの。ならばピリッ

と辛いからし菜や、強烈カ

ムシ風味のパクチーでい

きますか。産卵で忙しい

蝶々も避けて通ってくれる

かも。種を蒔きなおい、元

気な若葉にほつとしたのも

束の間、隣に芽吹いたリー

フレタスを素通り?幼虫達

はからし菜に結集、モリモ

リ完食、ユカブの葉、あの

パクチーまでも次々芯だけ

に。生きる事は食べる事、

まさに。ん〜でもどういう

味覚?

そう、食べる事は基本の

基。それにしても人間は

色々な都合で農薬、化学肥

料、食品添加物、遺伝子組

み換え穀物等々、自然界に

はない物を沢山作り出して

しまいました。毎日の食卓

に溢れています。目指すは

ささやかでも環境に優しく

安心な野菜作り、が、こ

れがはまります!土作り、

成長を見守る過程、楽しい

〜!おまけに収穫というご

褒美付き! 勿論大変な事

も山ほどの失敗ももれなく

付いてきます。自ら種を蒔

くことは、土、天候、そこ

で生きる虫や鳥、草など

様々な自然環境とどう向き

合って行くかを問われる事

でした。飽くなき農への

探究心?は、やがて、自然

環境と共生していく農を実

践されている皆さんとの出

会いに繋がり、田圃研修生

として入会させていただく

事に。そこには一緒に学び

合い助け合う楽しい先輩や

仲間達が。たった一粒の初

から始まる未知なるお米の

世界、田圃の物語の始ま

りです。

農のある暮らし、

のんびりと

雨海 万美

我が家では4年前に、友人経由でNPO「畑と田んぼ環境再生会」のことを知りました。研修会の実施要綱をもらい目を通して、「生き物との共生」を実現した「共生き畑」「共生き田んぼ」の文字に心躍り、早速4月から畑の研修に参加することになりました。

まず実際の自然農の畑の前にして、よく見られる雑草ひとつない「きれいな畑」と対象的だったことに驚きました。そして、作物が雑草の海の中でもスクスクと育っていること衝撃を受けました。

「子育ても同じなんだ。栄養でも何でも与えすぎはかえって良くないんだ。足りないくらいがいいのかも」と、夏のむせかえるような草いきれの中、半ば瞑想状態で感じました。研修

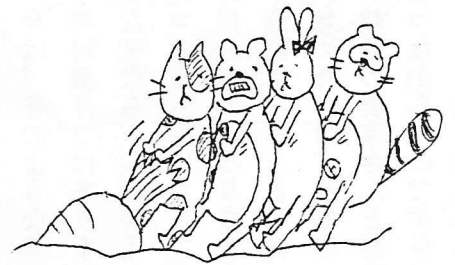
終了後のお昼のひと時、指導をして下さる親父さん方のあつく語る自然農への思いを聞くにつれ、だんだんとこの世界に引き込まれてきました。

全ての研修が終了し「畑環境自作人」として自分の畑を持てるという時に、折り返しよく私たちより一足先に研修を終えたお仲間より「下溝のモナの丘（農業レストラン）裏手に百m畑が借りられることになったよ。うちだけで百mは広いので半分どうですか？」とのありがたいお誘いがありました。もちろん二つ返事でお願ひすることに。

同時期に、自宅近所を散歩中に町内の親切な方に呼び留められ「この三角州でトマトでも植えてみるかい？」と、「ご自身が地主さんに借りている畑の一部を地主さんに掛け合って分けて下さる事にもなりました。まさに、棚からぼたもちな話の展開。そのことを他の

方に話すと「やっぱり畑の神様がちゃんと見てるんだよ」と言われ、では信頼を裏切らないようがんばってみようと思いました。

そんな経緯で、我が家の自然農4年目になる畑にはチョウ、バツタ、カマキリ、トカゲなどが楽しそうに遊んでいる、雑草と作物の共存する畑になりました。歴4年の長男は、幼稚園で「畑に行くよ、みんなの分もはーちゃん全部収穫してくれるんですよ！」と呆れられる程の達者ぶりです。まだまだ「畑仕事」というにはほど遠く「畑遊び」の様な感じですが、今年は、赤ん坊だった下の子も3歳になり一緒に種まきなどできるかな？という頃になってきたので、畑通い週2日を目指そうと思います。野望は、田んぼの研修への参加です。どうかしら？のんびりと農のある暮らしを続けていきたいと思つてるところです。



カンボジアで田植

宮脇 正

2010年7月カンボジアのシエムリエップに田植

に行った。二七日正午同地に着くと早速2時から3時間アム・ビレアさんと2人で田植をした。日本では高さ二十cmかそれより小さい苗を田植するがカンボジアでは三十cmを超える大きな苗を手で植える。日本では紐を張って真直ぐに田植するが彼の国では紐は張らず自分の周りに素早く植えていく。戦前日本では一人一反を一日で田植えしたと言うがそれに負けぬ速さでビレアさんは田植する。

彼は4頭の牛を飼つており一日に4回紐に繋がれた牛の位置を変え土に生えた新鮮な草を食べさせる。田植や牛飼いに加えマンゴーなど果樹の手入れいろいろの農作業をこなし夕方6時から近所の七才から十三才の8人の子供に英語を1時間教える。7時過ぎから奥さんのダム・ソンのさんの手料理で3人で夕食をとり一七日を終えた。

その後八月一日までビレアさんと2人で毎日田植をした。奥さんは身重で田には来なかつたが家の裏で6頭の豚の世話をしている。ビレアさんは手でかじをとる耕運機で田を耕すと日本なら代かきを行うが彼はでこぼこを鍬や足でならしてすぐ田植をする。彼は在来農法で米を作っているがカンボジアではSR農法 (System of Rice Intensification) が結構普及している。これはアフリカのマダガスカル島でフ

ランス人神父アンリ・デ・ロラニエが1983年に開発した農法でインドでは五十万町歩の田で既にこの農法で米が作られている。次回はカンボジアでこの農法を学びたい。そして今年私は長竹の小さな田んぼでこの農法を実験する。うまくいか失敗するかいずれにせよ楽しみである。



吉田 明

ありがとうございます

一昨年、川口由一さんの講演会にひかれて出かけて行ったところ、相模原市内で、こんなにすばらしい活動をしている会があるのを知り、その場で入会しました。そこから人生が変わりました。

その年から田んぼの研修を受け、一年間稲を育て、次の年からは、同期の仲間と田んぼを借りて2年間稲作りをしました。

十数年前から自然農にも入って、家庭菜園は始めていて、周りからぶつくさ言われながらも、草や虫を敵としない野菜作りをしてきました。やはり、稲を作るといのは、特別なものだと感じました。とてもいい経験でした。そこんところ詳しく書くと会報が全部僕の文章で埋まるのでやめておきます。

家庭菜園を始めるまでは、野菜もほとんど作った事がなく、性格的に理屈から入る方なので、まずは本をあさったり、インターネットで就農塾に入ったりしていましたが、漠然の農的生活に憧れこそすれ、農業を始めるといふ踏ん切りはつきませんでした。ですが、3年間稲と向き合っているうちに、段々「食べ物を作る仕事」への思いと、やれば出来るんじゃないかという自信が芽生えてきました。そんなわけで、この度、就農を目指して高知県で長期

研修を受ける事にしました。2年後には正式に農家になる事を目指します。

僕は自分の畑や田んぼは自然農でやっていますが、日頃食べるものは、外国産でも有農薬でも、遺伝子組み換えでも食べています。安いからです。他より余計にお金を払って自然食品屋さんのもを買う事に魅力を感じません。あんまり健康や長寿に対する優先度が高くないんです。

ですけど、自分で作る時は、わざわざ不健康な食べ物にもしません。健康に良いのには手間がかかり、生産者もボロ儲けしているわけがなく、精いっぱい値段をつけても、高価になつてしまいう理屈も理解できません。

最初自然農を始めた時は、自然農は全然手間がかからないので、きつとそこを解消出来るんだと思つていました。現実には、自然農といえども、機械や薬を使う

方法よりも、労力がかかる事がわかりました。自分でやった結果は、とつても歩留まりが悪い。収穫にまで至らなかつたり、収量が少ない事が多いかつたりです。これは、まず僕自身が作物の栽培の基本を知らないからなんだと考えました。

ですから、しばらくは、日本の多くの農家さんがやっている慣行農法をしつかり学ぶつもりです。たぶん、そこが出来たら、自然農でやつても、今とは違う結果になつて、安全なものを安い価格で提供できるようになれるんじゃないかと考えています。

また、慣行農法と言つても、今は、昔のような薬や化学肥料漬けではありません。なぜなら、薬は費用も作業コストも高いからです。肥料代もバカになりません。僕が農家になろうと本気で思い始めたのは、高知のハウス栽培の農家さんと懇意になつたからなのですが、

そこでは、土着の天敵を利用して害虫を抑える事をやっています。土着の天敵はタダで手に入るし、天敵は人間よりも効率よく働いてくれるからです。その他にもコンパニオンプランツの利用や、太陽熱による土壌消毒も行っています。

土づくりに堆肥を沢山投入するのも、今じゃ普通に教科書に書かれています。自然農の知恵も、どんどん慣行農法に取り入れられています。良いものが安く楽に手に入れば、プロは積極的に採用します。

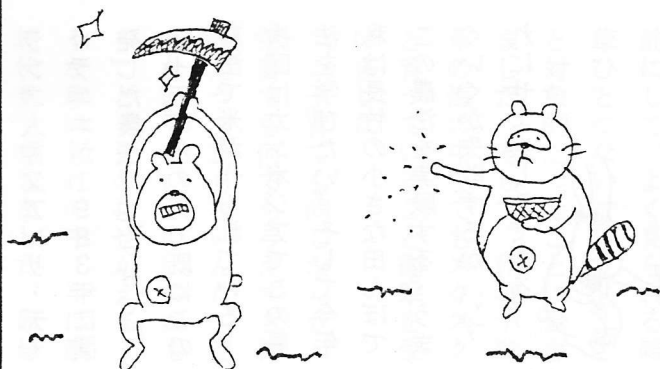
僕は、慣行農法側と自然農側の両方を学んで、安全で健康なものを安く提供できる農家になりたいと思っています。途中で考えが変わって強欲になるかもしれませんが、

たぶん自然農での栽培は、どつかで続けていくと思えます。それほど、草や虫たちに囲まれて、稲や野菜が育っていく様は魅力に溢れ

たものです。全然実りが無くつても、作っている過程だけで充分に楽しめますし、沢山の事を学ばせてくれます。

最後になりますが、ここまで踏ん切れたのも、皆様のご指導と仲間同士で楽しく切磋琢磨していったお蔭だと思つています。ありがとうございます。

とは言え、新規就農の定着率は3割だそうですので、挫折して帰ってきたら温かく迎えてください。



クリーンキャンペーン

四月十日(日)のクリーンキャンペーンに多数の参加、ありがとうございます。

私たちNPOの目的は、単に野菜栽培のためだけに生き物との共生を考えているのではなく、周囲全体を生き物豊かな環境にしているというものです。ですから、自分たちの田畑だけがよければいいという訳には行きませんね。周りの環境の掃除をしてきれいにすることが、私たちの田畑をきれいにすることにつながります。そして、これが多くの生き物たちのためにもなります。

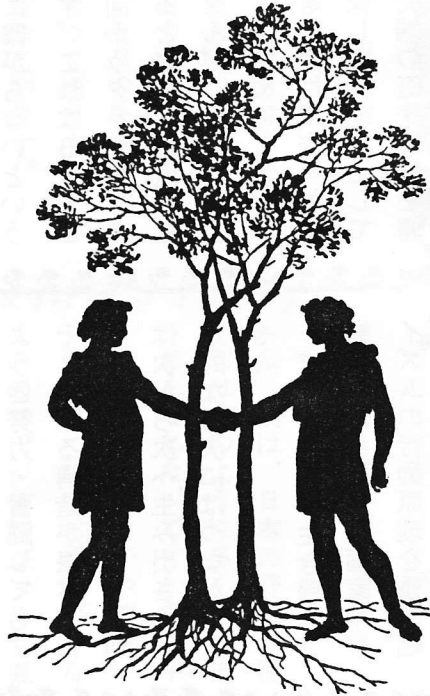
ともすると人間は、平凡なことを軽くあしらいがちです。難しく特別なことをしなければ、成果があらならないように思い込んでいる人もいます。しかし、そんなことはありません。平凡なことのひとつひとつの積み重ねに、非凡を生み出す大きな力が秘められ

ています。私たちが、今居るこの場所でクリーンキャンペーンを行うこともその一つですね。清掃後の清々しい気持ちよさ、そして、その後にみんなで一緒にとる昼食の格別の美味しさが、心身を通してこのことを教えてくれていると思います。(仲野忠晴)

活動報告

朝市義捐金報告

朝市売上を震災薪ストーブボランティアに義援金として贈りました。皆様朝市に色々ご協力いただき大変ありがとうございます。事前売り上げ四千四百円、朝市当日売り上げ二



万二千二百円、合計二万六千六百円を翌四月十一日に北海道の震災薪ストーブボランティア「ユイマール」に義援金として送金しました。NHKによるとすでに五十台の薪ストーブを避難所に送っています。私達は炭とか焚き火でとても暖かく、寛いでいますので、そ

れを避難所の方々にも味わって頂きたいと感じ独断と偏見でここに送金しました。奥村さんから義援金の提案があつてスローで小さなこの寄付が出来ました。この先も何かして行かなきゃと云う感じですね。

送金先情報知りたいかたは <http://zoukidayasi.kitagami.tv/e1787167.html> から薪ストーブ各社のHPを見てください。この次は薪ストーブシャワー企てているようです。まだ義援金欲しがつてるのでお金ある人はバンバン送ってあげてください。出品者の川上さん、奥村さん、猶井さん、安藤さん、田中さん、五十嵐さんまたお客さんになって頂いた宮脇さん、NPO里山津久井守る会理事長安川様等など沢山の皆様、いただいたお金はきつと役にたつと思います。ありがとうございます。

次回朝市は5月8日8時からです！
今度は飲み代稼ぐ為に頑張ります！ (田島清春)

THE炭やき報告

三月二十六日(土)鳥屋山中の炭やき窯にNPOの仲間が総勢二十人集結！
晴天に恵まれ順調に作業が

進み、窯に火を入れて本日の作業終了！その後は、極寒のキャンプファイヤー。参加者の半分はテントで宿泊！キャンプファイヤーを囲み各自自慢の食材を持ち寄り大宴会を楽しみました。窯止めは三月二十八日。四月二日に出炭でした。詳しい報告は次号の会報誌で。
(五十嵐淳一)

森林環境再生チーム

万歳！

五十嵐、今井さん、中川さん、猶井さんの四名で森林環境再生チーム結成！

森林整備に当たっていらっしゃる方々も田畑同様に年配の方が殆どです。そろそろ我々が山を守る出番がやってきたのではないのでしょうか？山の方達の技と知恵を受け継がなければなりません！また森林は田畑ともつながっています。森林整備に興味のある方は五十嵐まで連絡お願いします。
(五十嵐淳一)



本の紹介

増補「国の理想と憲法—
国際環境平和国家への
道」(野村昇平、七つ森書
館、定価二千四百十五円)

なぜ人類が現在の危機に陥っているのか、そして、その危機を解決しようとする心ある人の様々な試みや活動がなぜ決定的な力にならないのか、このような疑問を持つてるときに出会ったのがこの本です。読んでみると、まさにこの疑問に答える内容でした。私たちの置かれている多様な問題の原因とその状況、そして、その解決の方向を明快に分析し、広い視野と人間についての深い洞察に基づいた考察と提言からは、この種の問題を扱った従来の本にはない強い感銘を心に受けます。

筆者は、日本国憲法の意義、地球環境と人類社会の現在の状況を解説した後、

「世界が直面している深刻な問題を解決しようとしてきた多大な努力がなぜ実を結ばないのか」について核心を突く分析と考察をします。それは社会の根底で働いている力の方向を変えない限り、その上の制度や仕組みをいくら変えても根本的解決に繋がらないということです。これはちょうど氷山に向かうタイタニックに例えるとうっかり易いかもしれません。つまり、その中の乗客のために、自然農・自然栽培の食材で作った安全で美味しい料理を出しても、最先端の医療施設を備えていても、楽しい娯楽施設があっても、心を込めて乗客にサービスをしても、それらが船自体の方向を変えることにつながらない限り破滅への道が避けられないということなのです。そして、筆者は、人類の歴史的・社会的観点から社会の根底に働いている力を分析し、その力こそが国家エゴイズム

であると看破します。確かに言われてみればその通りです。その国自身の行動原理がエゴイズムであれば、当然そのエゴイズムが社会のあちこちにも反映し、様々な問題を作り出します。そして、心ある人たちがそれらの問題を解決しようと努力・奮闘しても、それを作る構造が根本的に解決していかない限り、問題は次から次へ生み出され決定的な解決にはつながりません。

では、自国の生き残りと繁栄のみを考える国家エゴイズムの行動原理を乗り越えるためには何が必要か。筆者は様々な条件を考察した上で、その鍵を握るのは日本であると主張します。そして、そのためには、日本が「私たちの日常の努力が、国内の諸問題の解決に直結し、なおかつ、全人類の危機回避に繋がる」新しい国家理想を持つことが必要だと説きます。つまり、

日本が「国際環境平和国家を目指す」という脱国家エゴイズムの理想をまず掲げ、その方向に向かって国づくりにするということです。

エゴイズムを推し進めていくとエゴイズムそのものを壊していかねければならぬことがわかってきます。なぜなら、この世界では、他のものと無関係に単独で存在できるものなどなく、それぞれが関係して生きていくからです。多くのいのちが、そのつながりの中で他に生かされ、また他を生かしているのです。つまり、関係性の中にこそ幸せがあるのです。ですから、自身自身の幸せを追求しようとするならば、他の人を幸せにすることを考えていかなければなりません。このことは個人だけではなく国家においても同じです。

東日本大震災が起きた後、今後どのような方向に向かっていくのかということが急務

の課題です。そのビジョンやヒントをこの本は与えてくれます。個人レベルだけでなく国家レベルでも脱エゴイズムを目指す時期にもう来ているのではないのでしょうか。

平和を願い実践している人はもちろん、閉塞感に包まれ光を見出せない人にも是非読んでもらいたい本です。

(仲野忠晴)



- ・料理交流会
7月24日(日)
- ・田んぼ見学ツアー
現在日程の調整中
- ・畑研修会(高橋浩昭氏)
9月11日(日)
- ・収穫祭 11月20日(日)